



希望の鐘 *The Bell of Hope*



The Y's Men's Club of Kawagoe

〒350-0046 川越市菅原町7-16

tel : 049-226-2491 fax : 049-226-2304

c/o Kawagoe YMCA, 7-16 Sugawara-cho, Kawagoe, Saitama 350-0046 Japan

川越ワイズメンズクラブ会報

No. 20-12

6月号

発行 2019年6月16日

Chartered 1998

会長	森下 千恵子	クラブ会長主題	「ワイズメンズクラブを楽しもう！」
副会長	松川 厚子	国際会長主題	“Yes, we can change” [私たちは変えられる]
会計	山崎 純子	アジア太平洋地域会長主題	“Action” 「アクション」
書記	吉野 勝三郎	東日本区理事主題	「成せば、成る」 No challenge, No fruit.
		関東東部部長主題	「良いものを見つけ・つなげて、よくなるう」

6月の聖書

雨も雪も、ひとたび天から降れば、
むなしく天に戻ることはない。
それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ
種蒔く人には種を与え
食べる人には糧を与える。

旧約聖書 イザヤ書 55章 10節

As the rain and the snow come down from heaven,
and do not return to it without watering the earth
and making it bud and flourish,
so that it yields seed for the sower
and bread for the eater.

(Isaiah 55:10)

5月例会報告

吉野 勝三郎

1. 川後クラブ20周年記念例会の反省

- 1) 小冊子の残部は、川越クラブの20年の歴史がまとめてあるので、EMCに役立つので、積極的に活用しよう。
- 2) さらに、小冊子は、次週、代々木で開催される第22回東日本区大会で、各クラブ会長に配布する。約80部。
- 3) お祝いを頂いた方々にお礼状を出す。
- 4) お祝い金があったので、予定を上回る決算となったとの会計報告がなされた。
- 5) 川越センターに寄贈した椅子を確認した。
- 6) IBCのSalem Dynamic Service Clubとの交流を再開する。

2. 来期以降のクラブ会費の支払い方法について

従来から、前期・後期と、2回の分割払いを受け入れてきたが、会員の实情に即して、更に回数を増やした支払いも容認することにした。

3. 「こども食堂」への取り組み

埼玉YMCAを長年支援しておられる、伊勢国望さんの活動を川越ワイズメンズクラブがどのように関わっていくのが良いかを検討した。まずは、「こども食堂」の現状を知るため、参加できる人が、講演会その他に参加するところから始めることにした。新しいCS活動となるので、関東東部のCS資金を申請することも考えられるとの意見があった。埼玉YMCAとしては、川越センターの1階の既存の設備を使って、月1回程度からスタート際に、協力する意思のあることは、小谷総主事の了承を得ているとの報告があった。

4. 従来から客員として川越ワイズメンズクラブの活

2019年5月の統計 (5月25日)

在籍11名 出席者9名 出席率 82%
(客員として、生川 美樹さんが出席)

2019年 6月 例会予告

日時: 6月29日(土) 午後4:00 ~ 7:00

場所: 埼玉YMCA 川越センター

- 議題: 1. 新年度活動方針・予算審議
2. 「こども食堂」実現に向けての取り組み
3. その他



紫陽花の季節

動を支援してくれている生川美樹さんには、正式な入会を期待する声が多く聞かれた。

第22回ワイズメンズクラブ東日本区大会

吉野 勝三郎

6月1日(土)・2日(日)国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された第22回東日本区大会では、都合で参加できなかった森下千恵子会長に代わって、川越クラブを代表して、バナーセレモニーに参加しました。川越クラブのバナーはご存知のように「山吹」と「時の鐘」がみごとにデザインされたもので、今回は一番大きいものを持参しました。例年のことながら、バナーセレモニーに参加するには、バナーを持って舞台のソデで、紹介される順序に並ぶ必要があります。区大会参加歓迎のショーを見ることができません。今回も素晴らしい舞台を見逃しました。でも、川越クラブは東日本区にあって、重要なクラブです。川越クラブの有能なメンバーが、アジア太平洋地区・東日本区・関東東部・埼玉三クラブそれぞれの活動に対して常に指導的の役割を果たしています。胸を張って、バナーセレモニーに参加し、宮内理事としっかりと握手をすることができました。



第22回ワイズメンズクラブ東日本区大会 「フレッシュワイズの集い」報告

利根川太郎

2019年6月1日第22回東日本区大会の開会式に先立ち、代議員会やメネットアワーの開催と平行して「フレッシュワイズの集い」が今大会から初めて実施されました。ワイズに参加して1年半、ギリギリまだ“フレッシュ”な利根川が参加してまいりました。

会場に着いたときは既に自己紹介が始まっていましたが、LT委員の大澤和子メンが上手にサポートしてくださり、すぐに参加メンバーの輪に入ることができました。

参加者は、ゲストも含めて9名と1時間半のプログ



ラムとしてちょうど良い人数です。参加者の他に、ファシリテーターの大澤さん、LT委員長北村文雄メン、次次期理事大久保知宏メン、大ベテランの大澤英二メンが活動をサポートしてくださいました。

まず、3人ずつのグループに分かれて「ちょこっとチャット」。これは机に置かれたカードをめくってそこに記された問いを声に出して読み、それに対する自分の考えを述べるというアイスブレイキングです。問いは、「今まで読んで良かった本は?」「一番うれしいのはどんなとき?」など、具体的なものから抽象的なものまで様々です。

大澤さんの巧みな進行で和気藹々と互いの意見や経験を伺う内に、それぞれの人柄も浮かび上がってきたところでグループディスカッションへと移行しました。お題は「私にとってワイズメンズクラブはこんなクラブ」「ワイズについてもっと知りたいこと(わかりにくいこと)」「これからのワイズに期待すること」「楽しいクラブライフを送る秘訣」です。2週間後にチャーターナイトを控える横浜つみクラブのメンバーも参加されていて、設立に関わって親クラブの献身的なサポートへの感謝も聞くことができました。

グループの意見を全体でシェアした後、LT委員長の北村さんからワイズ活動の4つの柱「地域奉仕」「YMCAサービス」「国際・交流」「EMC」について、さらに活動の理念「隣人愛によるサポート」のお話が有りました。また、現在のワイズが抱える課題についても言及されていました。

次次期理事の大久保さんからも、フレッシュなワイズメンにエールが送られて実り多い集いとなりました。



ワイズメンになって初めての大きな大会はなかなか参加しづらかったり、参加しても他クラブメンバーとの交流には勇気が要ったりしますが、そのちょっとした壁を乗り越えることができる集いだと感じました。また、新しい目を通して見たワイズの姿を皆さんとシェアするのも大切だと感じました。大澤さんのリラックスさせてくれる巧みな進行もあって、「フレッシュワイズの集い」は大成功だったと思います。



第22回東日本区大会報告 森重昭さんの講演

吉野 勝三郎

宮内理事は、東日本区理事就任時からこの森重昭さんを講演者に呼ぶことを念頭に今年の東日本区大会のテーマを「つなごう 平和への道しるべ」に決めたのではないかとと思われるような講演内容でした。



森さんは、2016年5月27日現職のアメリカ大統領として広島に来られたオバマ大統領が固く抱きしめた方です。写真を見れば、多くの方が、あの方かと思えることと思います。80歳を超えて、元気に講演をこなしておられる姿には頭が下がります。森さんは、勤めを持ちながらも、1945年8月6日広島被爆の日、広島にいて被爆した12人のアメリカ人捕虜(POW = Prisoner of War)のことを調べ上げたのです。加害者である米国人のためになぜこのようなことをするのかという批判もあったと言われていました。

戦争には常に勝者と敗者があり、加害者と被害者という関係に発展します。最近の日韓関係を見ても良く分かります。1945年生まれの方として、戦争があつて欲しくない願いつつ、森さんのこと、令和となった天皇代替わりのこと、憲法9条のこと、政教分離のことなど、改めて考えつつ聴きました。帰宅後、森さんの著作をアマゾンで注文し、映画「灯籠流し Paper Lantern」のDVDが入手できるかどうか、宮内理事に問い合わせました。

映画「灯籠流し Paper Lantern」
が描いた! ある日本人歴史家の平和への祈り

原爆で死んだ 米兵秘史

【改訂版】
Mori Shigeaki
森重昭

広島を訪れたオバマ大統領が特にスピーチで言及し、敬意を表した執念の調査研究! 本書は、自らも被爆者である一研究者が、日米関係者への聞き取り調査をもとに初めて明らかにした、被爆死した米兵捕虜12人の真実の記録である。

映画上映記念!

定価2160円(税込)
ISBN 978-4-7698-1623-2 C0095 #2000E

お買い求めは全国の書店、または
ブックサービスtel:0120-29-9625へ

潮書房光人新社
〒100-0677 東京都千代田区大手町1-7-2
TEL 03-6461-0607
HP http://www.kojinsha.co.jp

第22回東日本区大会に参加して

利根川恵子

去る6月1日(土)、2日(日)の2日間にわたり、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された第22回東日本区大会に、吉野勝三郎、吉田公代、山本剛史郎ワイズと我々夫婦2名の計5名が川越クラブから参加しました。

吉野さんは会長代理で代議員会に陪席、バナーセレモニーで登壇とご活躍でした。さらに山本さんは東日本区ユース事業主任として活動報告や表彰があり、さらに懇親会ではいつものアジア太平洋地域大会アピールで伊達政宗公の衣装でのエールがあり、存在感を示していました。吉田さんは部会計として、川越クラブの献金達成賞が漏れていたことを見事にご指摘くださり、区事務所から訂正の連絡がありました。太郎は「フレッシュワイズの集い」でワイズダムの研鑽を積み、私は役員引継式において、引き続き文献・組織検討委員会委員長を拝命いたしました。参加者5名がそれぞれに輝いた東日本区大会でした。

それにつけても、経費を安く抑えるために、ホストクラブの東京サンライズクラブのみなさまや他クラブの支援者、YMCA関係者のお働きには頭が下がります。お部屋に入れば既に鍵がテーブルの上に置いてありましたし、朝7時にはシーツと鍵の回収ということで宿泊棟の玄関で待機していただきました。その他、細かいお金のやり取りも含め、すべてを取り仕切るとは本当に大変だったと拝察されます。2年前の川越での大会を振り返り、その何倍も動いていらっしゃる担当者の姿に感激いたしました。

また、記念講演も大変感動的で、講師の森重昭さん

が一人の歴史研究者として、原爆の犠牲となった 12 名のアメリカ兵の遺族を捜し当て、記念碑に名を刻めるようにと、個人で多大な労力と時間をかけて実現してきた道のりを「Paper Lanterns」というドキュメンタリーフィルムと講演でお示しになり、私はそのような取り組みがあったことを初めて知りました。今まで、なぜオバマ大統領が彼とハグをしたのか良く事情がわかりませんでした。この講演でその理由がよくわかりました。詳細は吉野さんの記事をお読みいただければと思いますが、とにかく心に残る講演の一つであったことは間違いありません。



区大会終了後は、第 28 回アジア太平洋地域大会実行委員会があり、じっくり東日本区大会の感動と喜びに浸る暇も無く、吉田さん、山本さんと私の 3 名は、次の大きな行事の準備へとそそびました。みなさま、次はアジア太平洋地域大会です。いくぞ、仙台！



YMCA 報告

河合 今日子

1. 6月22日～23日 English Camp 開催します。
年中～小6まで。経験豊富な外国人スタッフと日本人スタッフと一緒に英語で自然探しをしませんか？詳細、申し込み方法は下記をご覧ください。

<http://www.saitamaymca.org/information/pdf/2019/20190529englishcamp.pdf>★

2. 夏休みの子ども短期講習会（水泳・体操・英語）& キャンプのご案内

今年も、バラエティーに富んだサマープログラムが実施されます。6月13日から一般募集が始まります。お知り合いの方をぜひお誘いください。

- ◆水泳・体操子ども短期講習会（年少～中3 / 所沢）
- ◆キャンプ（年少～中3 / 1泊2日～2泊3日）
- ◆English Summer Camp（年中～小6 / 1泊2日）
- ◆English Summer School（年少～小6 / 2日または3日または5日間通い / 浦和・所沢）

◆English PreSchool（2～3歳 / 3日間通い / 所沢）

【詳細・申込方法はパンフレットをご覧ください】

<http://www.saitamaymca.org/information/pdf/2019/20190525summerguide.pdf>

いつもお支え下さり感謝します。

（編集後記）

私は、ワイズメンズクラブに出会って本当に幸いでした。新しい人と知り合い、喜びを共にできる、こんなに嬉しいことはありません。私は、仕事でも、本来の仕事で達成すべきことは何かを忘れて、出会った人との関係を先行させてしまうことがたまたまあり、上司から叱られたことがあります。このような性格は、なかなか直りません。74歳になった今、この性格を許してもらいながら活動できるワイズメンズクラブは私にとっては、本当に貴重な存在です。7月から会長を務めさせていただきます。会計は引き続き山崎純子さんが、書記は、私に代わって利根川太郎さんです。第21期となる川越ワイズメンズクラブの活動をよろしくお祈りします。

（KY 出張中の米国コネチカット州 Hartford にて）

（編集追記）

今回の出張には、買ったままなかなか読み進まなかった、多和田葉子著「献灯使」という小説を持って来て、読了しました。この本は、今年、米国で最も権威のある文学賞の1つ、「全米図書賞」で、今年から加わった翻訳文学部門の受賞作品となったものです。アメリカ人との話題にもなるだろうと思って、英語版も手に入れて持ってきました。英語の題名は「Emissary」で受賞したのは National Book Award です。

ユートピア（Utopia）の反対でディストピア（Dystopia）と言われるジャンルを書いた小説です。大災厄を経て「鎖国」を決めた近未来の日本が舞台で、老人は健康で死なず、子供は病弱で長生きできないという話です。ディストピアは、日本語では反理想郷又は暗黒世界と訳されるそうです。講談社文庫で購入できます。

2,000万円が議論されていますが、22世紀の日本はどうなっているのでしょうか。著者の多和田葉子さんは、この本が出版される2014年の1年前、原発事故の爪跡が鮮やかに残っている福島を車で回っているそうです。

次号から、利根川太郎さんにバトンタッチします。